

安佐医師会病院



外観

1990(平成4)年に建設された旧安佐市民病院北館を改修。2023(令和5)年に「安佐医師会病院」を中核とする合築施設を開業。病院は、1F外来、3F事務室、4~6F病棟。7Fは足湯も楽しめる屋上庭園となっている。



1F外来 トイレ



カウンターへの水はねを低減するセルフリング式の洗面器と自動水栓を組み合わせ、衛生性を向上。大便器ブースの間仕切り壁は、天井まで立ち上げることで、防犯性に配慮している。



1F外来 トイレ



大便器ブースは余裕ある空間とし、連続洗浄が可能なパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を設置。壁掛型の自動洗浄小便器には、足元にハイドロセラ・フロアPUを採用して清掃性を高めている。



1F外来
バリアフリートイレ



バリアフリートイレには、車いす使用者や乳幼児連れ、オストメイトなど、さまざまな利用者に対応できる設備を完備。内寸は約3000mm×2500mmの空間を確保している。



1F外来 スタッフ用施設



多用途で利用するシンクには、バケツなども洗いやすいように、グースネックタイプの水栓を設置。さらに、各洗面器に電気温水器も設置。スタッフ用のトイレは、手洗器付きの個室完結型としている。



3F リハビリテーション

3Fのリハビリテーション一角には、車いす対応洗面を設置(写真左奥)。利用者やスタッフがトイレまで行くことなく、気軽に手が洗えるようにし、院内の衛生性を高めている。



5F地域包括ケア病棟
スタッフステーション

感染管理認定看護師の指導のもと、スタッフ用手洗器を衛生的に手洗いができるようにスタッフの動線上に設置(写真左奥)。楽な姿勢で腰への負担を軽減するため、あふれ面の高さを850mmに設定している。



5F地域包括ケア病棟
談話室

患者さんが共用で利用する談話室には、キッチンと車いす対応洗面を設置。スタッフからの要望で、とりみ付き飲料を手早く準備できるサーバーも用意されている。



5F地域包括ケア病棟
一般病室・特別室



4・3床室には車いす対応洗面を設置し、手洗いや歯みがきができるように配慮。1床室などの個室のトイレは便ふたなし仕様とし、背もたれを設置することで、座位が安定し、安心して用足しができるようになっている。



5F地域包括ケア病棟
特別室 水まわり



特別室には、ミニキッチンや洗面台、浴室を設置。浴室のユニットバスの浴槽は、フチはだれにでも使いやすく安全に配慮された形状に設計されており、さらに、床はすべりにくく乾きやすいカラリ床を採用している。



5F地域包括ケア病棟
バリアフリートイレ

トイレの数が不足していたことから、倉庫を活用して、内寸約2500mm×2500mmと広々とした空間のバリアフリートイレを新設。また、スタッフが利用する汚物流しも併設している。



5F地域包括ケア病棟
浴室

患者さんが共用で利用する浴室には、介護ユニットバスを採用。必要箇所に手すりを設置。浴槽のフチも握りやすいリム形状とし、洗い場の床には、乾きやすく雑菌の繁殖も抑えられるようカラリ床を採用している。

安佐医師会病院



5F地域包括ケア病棟
特別浴室

3フロアに、3タイプの特種浴槽を採用。そのほか、洗髪器やシャワー設備も備えるなど、バリエーションを用意することで、必要に応じて、快適に利用できる入浴環境を整えている。



5F地域包括ケア病棟
洗濯・洗面所

施設利用者が共用で使う洗濯・洗面所には、車いす対応洗面を設置。多用途に使えるシンクには、湯水の切り替えがクリック感でわかるエコシングル水栓を組み合わせている。



6F緩和ケア病棟
ホール

広々と設計された緩和ケア病棟のホール。ボランティアの方の協力による季節に応じたイベントなどが実施できる。またその場で手が洗えるように、あふれ面の高さを700mmに設定した車いす対応洗面を設置している。



6F緩和ケア病棟
談話室

和室と、スタッフや家族の方が利用できるキッチンを備えた談話室。緩和ケア病棟では、長く病院で過ごす方もいるため、「話を聞く」をいうことを大切に、快適に過ごせるようにしている。



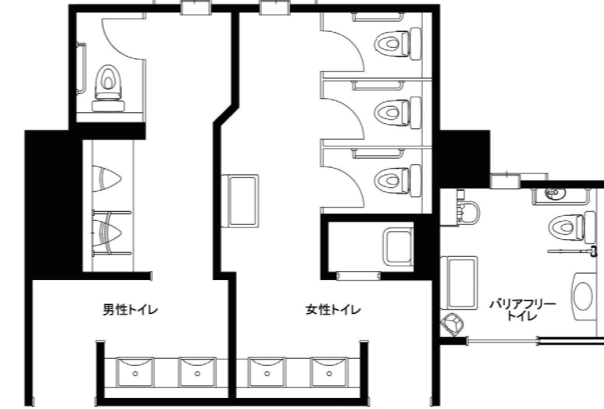
6F緩和ケア病棟
病室

緩和ケア病棟は全室個室とし、ベッドと床頭台のほか、トイレや洗面を設置。さらに、1218サイズのシャワーユニットを備えた個室や1418サイズのバスタブ付きのユニットバスを備えた特別室も1室用意している。



改修前

改修前のトイレは、床を水で洗い流す湿式清掃で、清掃後は乾ききらず、濡れたままでも滑りやすかった。また、衛生器具も老朽化が進んでおり、洗面コーナーには部分的に手動水栓も残っていた。



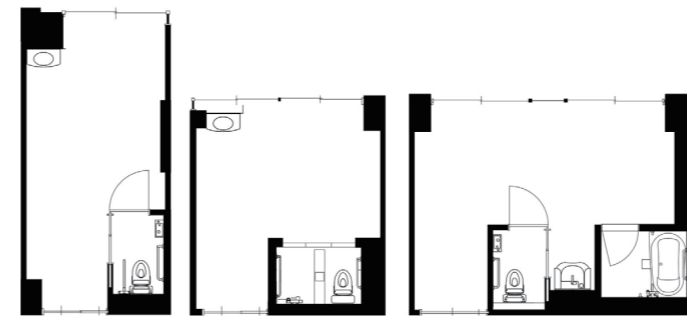
1F外来 トイレ図面

1H10人程度の利用を想定して作られた外来トイレ。男女トイレほか、バリアフリートイレの機能も充実させた。女性トイレにはベビーシートを取り付け、通路幅も確保できるよう、仕切り壁の一部を男性側に寄せている。



5F地域包括ケア病棟
病室図面

地域包括ケア病棟は2フロア82床あり、4床室、3床室、1床室、特別室とさまざまなタイプを備えている。



6F緩和ケア病棟
病室図面

緩和ケア病棟は20床あり、全室個室となっている。トイレのみのタイプやトイレのシャワーユニット付きのタイプ、トイレとユニットバスが分かれたタイプなど、さまざまなバリエーションを用意している。

水まわりの特長

改修の経緯

広島県広島市安佐北区に、1990(平成4)年に建設された「旧安佐市民病院北館」を約2年かけて大規模改修、「安佐医師会病院」を中核とする、可部夜間急病センターや安佐准看護学院など5施設の合築施設が開設された。高度急性期医療に特化された「北部医療センター安佐市民病院」と機能分化を図り、これまでの「病院完結型」から、地域全体で治し支える「地域完結型」医療へ転換。高齢者の増加や病床不足に対応し、日常的な医療を提供する病院として、緩和ケア・地域包括ケア病棟102床を備える。また、新しくスマートスピーカーも導入、院内のwifiを使って、照明や空調の制御を寝たまま操作できたり、テレビ電話も可能な環境を整えており、面会に訪れることなく家族と繋がる仕組みも取り入れている。

水まわりの特長

日頃より安心できる施設を目標として、スタッフの声を取り入れ、利用者が安心して利用できる水まわりが計画された。すべての大便器を洋式便器に変更し、大便器ブースに手すりを設置。病室トイレには、患者の動線に配慮し、かつスタッフが介助しやすいよう2面が広く開放できる大型建具が導入されている。また、病棟のバリアフリートイレの数が不足していたことから、短い動線でトイレに行けるよう増設。空間内装は、利用者の気持ちに寄り添う色使いに配慮され、トイレ内は乾式清掃できる仕様で一新された。さらに、最新の衛生器具を取り入れることで安全性・衛生性を高めるとともに、環境負荷とランニングコスト低減を図る節水・節電商品を積極的に採用している。

建築概要

名称	安佐医師会病院
所在地	広島県広島市安佐北区可部南2-1-38
施主	地方独立行政法人 広島市立病院機構
設計	大旗連合建築設計株式会社
施工	戸田建設株式会社
竣工年月	(改修)2023年2月
敷地面積	9,854.69㎡
建築面積	3,460.59㎡
延床面積	11,052.36㎡
構造・階数	鉄骨鉄筋コンクリート造・地上7階、棟屋1階

おもなTOTO使用機器

- パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS498B
- ウォシュレットPS(擬音装置「音姫」付きエコリモコン):TCF5534AE
- 棚付二連紙巻器:YH702
- 自動洗浄小便器:UFS900JS
- 車いす対応洗面(居室向け):MVHG
- 洗面器:L350
- 台付自動水栓:TENA40A
- 自動水栓一体形電気温水器:RECK03B1系
- 水栓金具:TKN34PBRR、TKS05301J
- コンパクトオストメイトバック:UAS82RDC1NW
- ベビーシート:YKA24S
- ベビーチェア:YKA16S
- スタッフ用手洗器:LS850R
- 洗髪器:S305DNU
- パブリック用流し:UAS24B、SKL330DRFP
- ホテル向けユニットEDシリーズ:EDV1418系
- 介護ユニットバス XAシリーズ:XAV1620系